

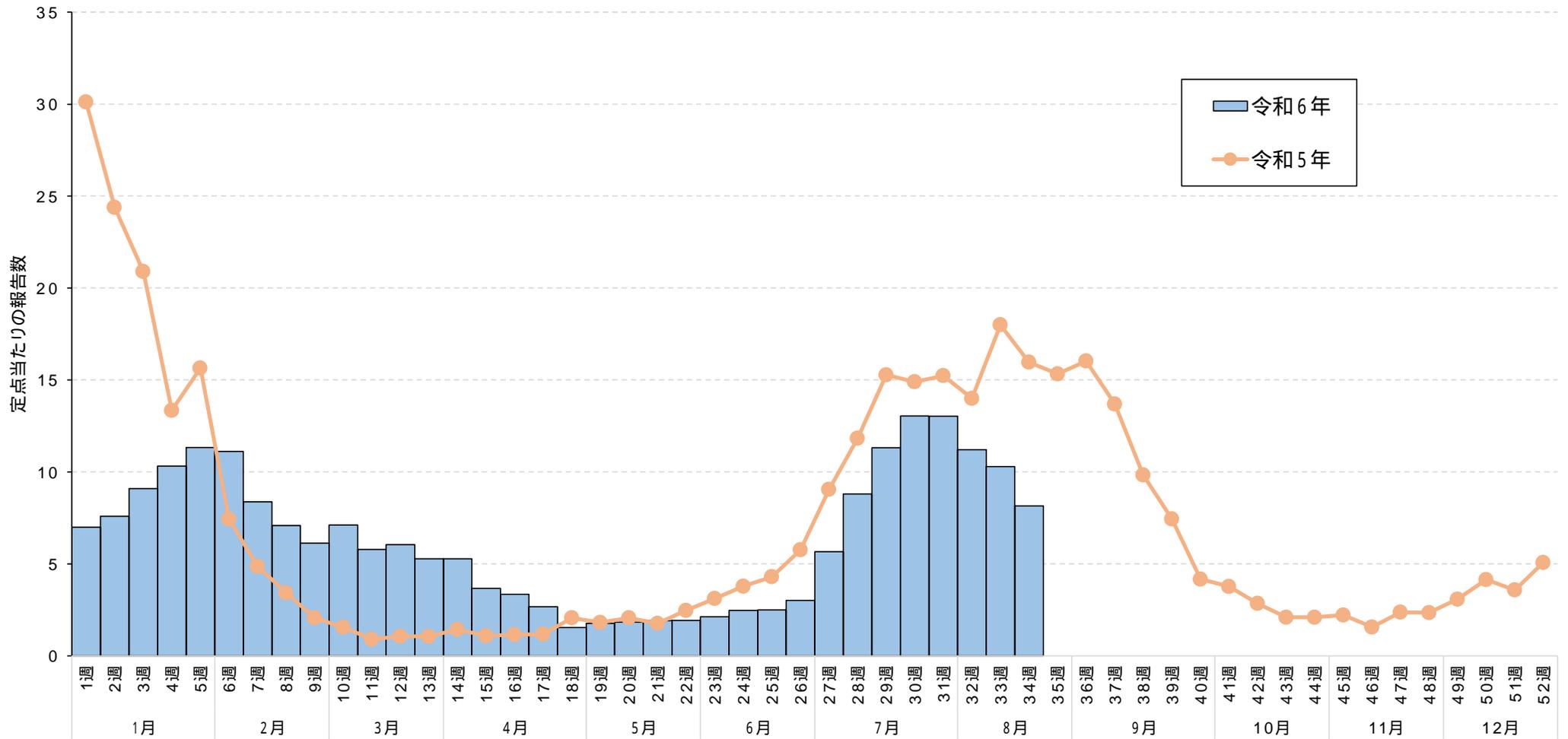
滋賀県の感染症発生動向

滋賀県衛生科学センター
令和6年9月3日

1. 新型コロナウイルス感染症

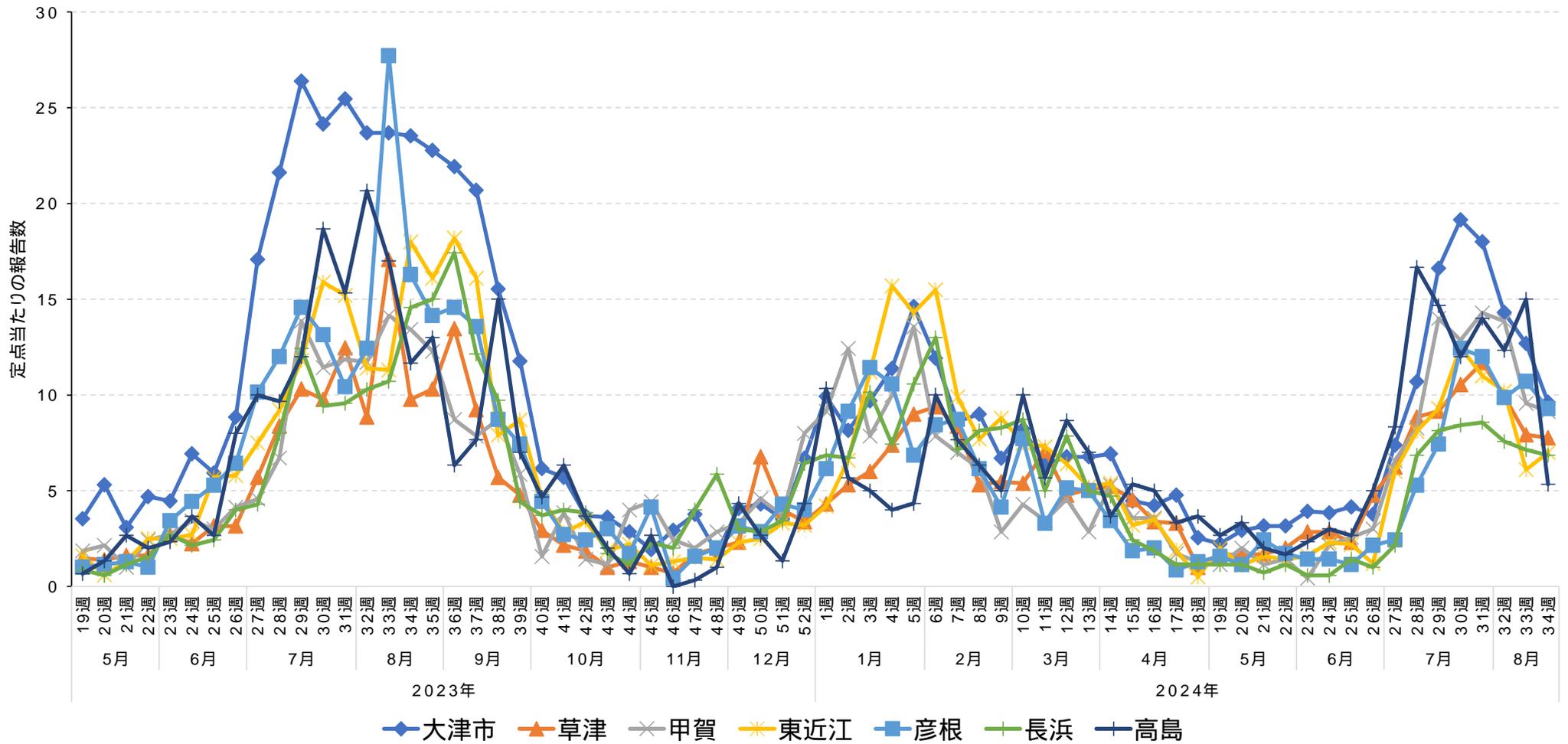
滋賀県 新型コロナウイルス感染症流行状況

R5年第1週(1/2 ~ 1/8) ~ R6年第34週(8/19 ~ 25)

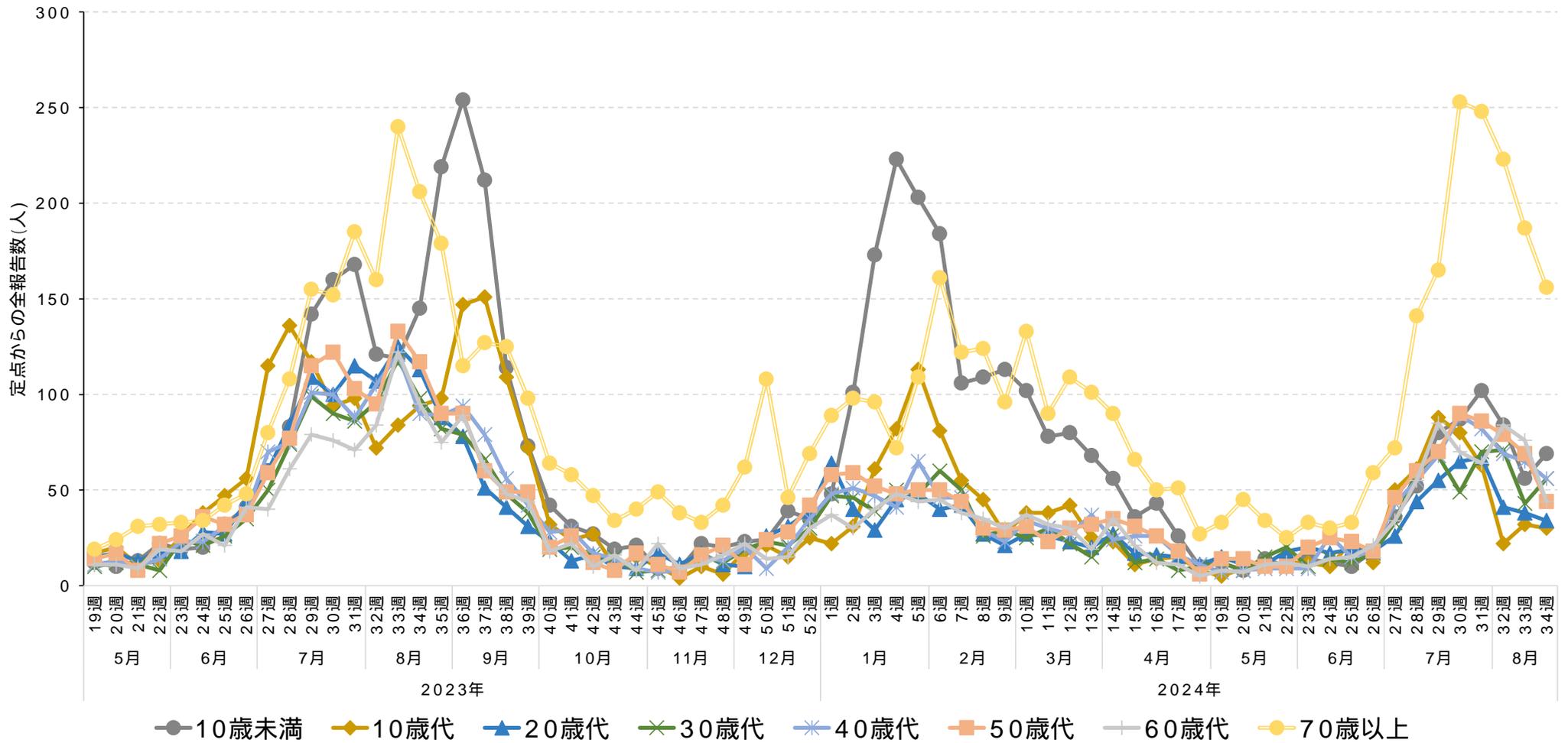


令和5年第18週以前は全数報告から定点医療機関を抜き出して計算した数値になります。

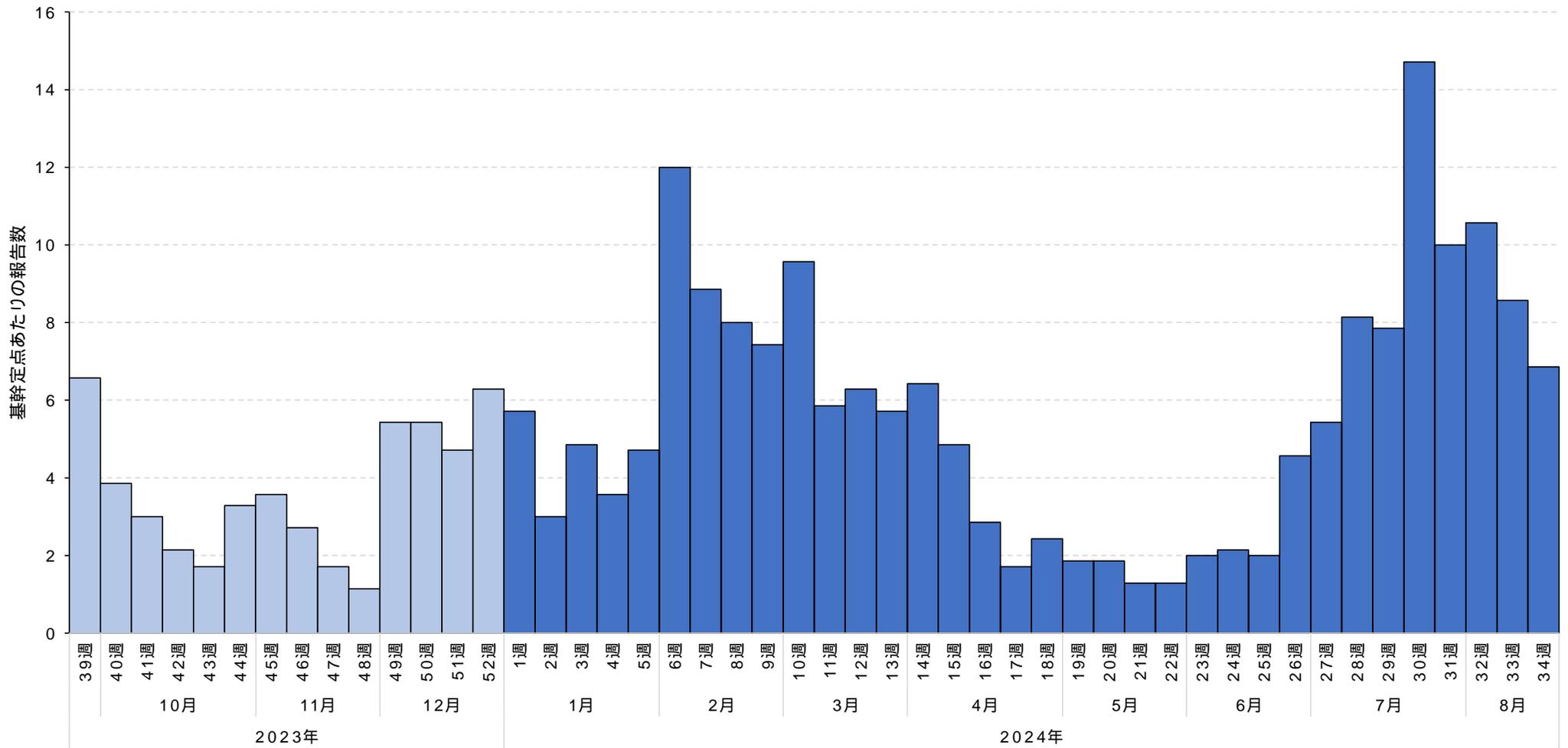
滋賀県 新型コロナウイルス感染症 保健所別推移 R5年第19週(5/8～14)～R6年第34週(8/19～25)



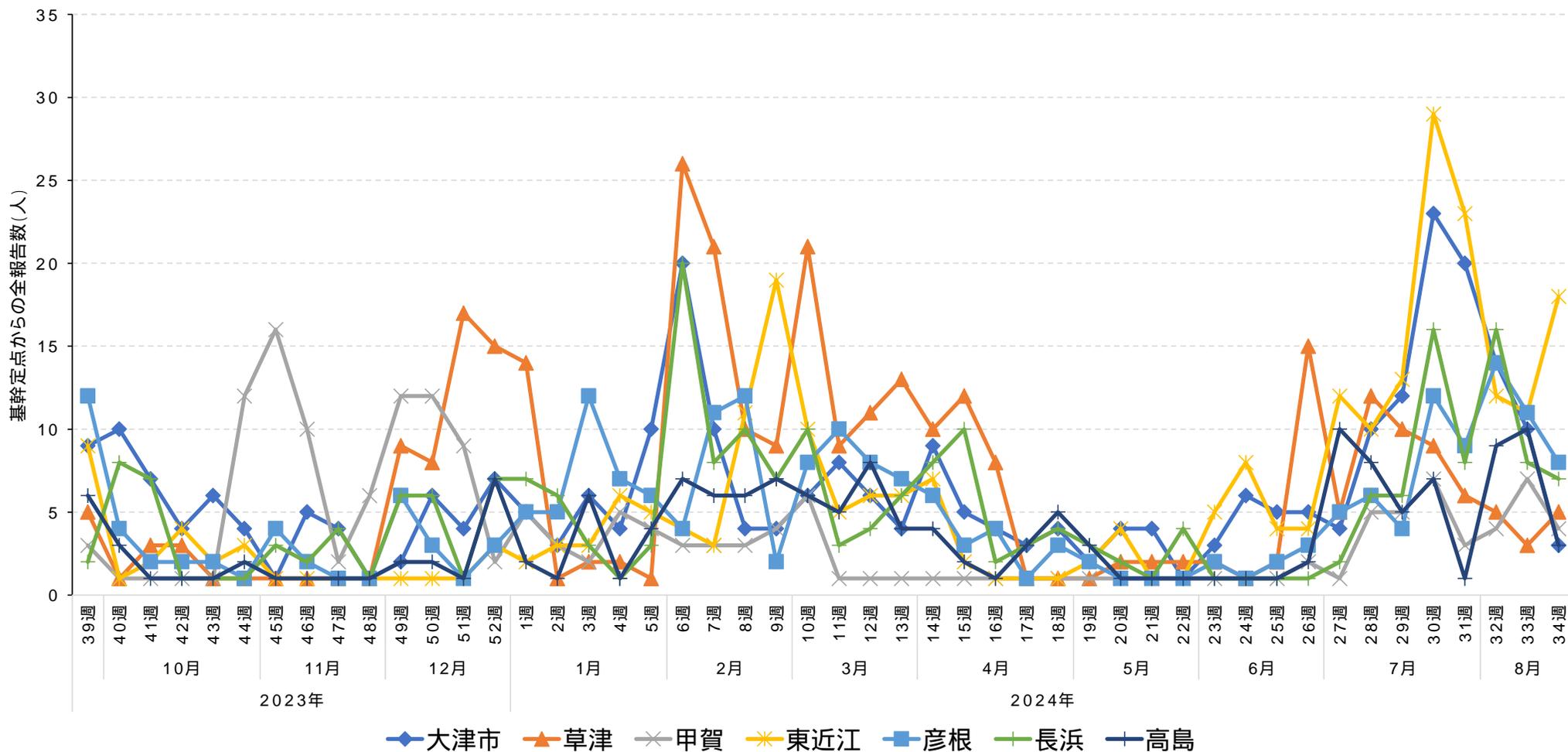
滋賀県 新型コロナウイルス感染症 年齢別推移 R5年第19週(5/8~14)~R6年第34週(8/19~25)



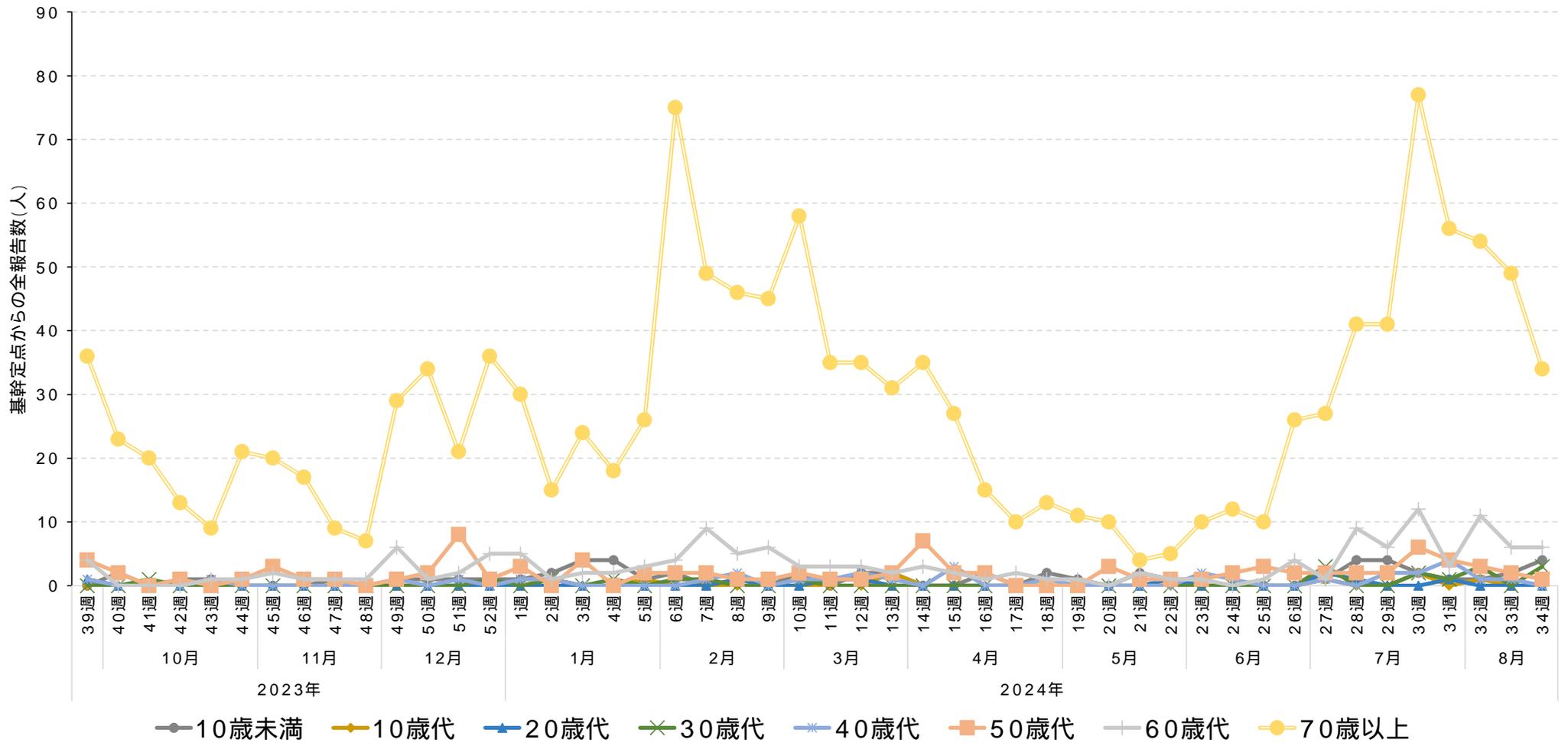
滋賀県 新型コロナウイルス感染症 入院サーベイランス推移 R5年第39週(9/25～10/1)～R6年第34週(8/19～25)



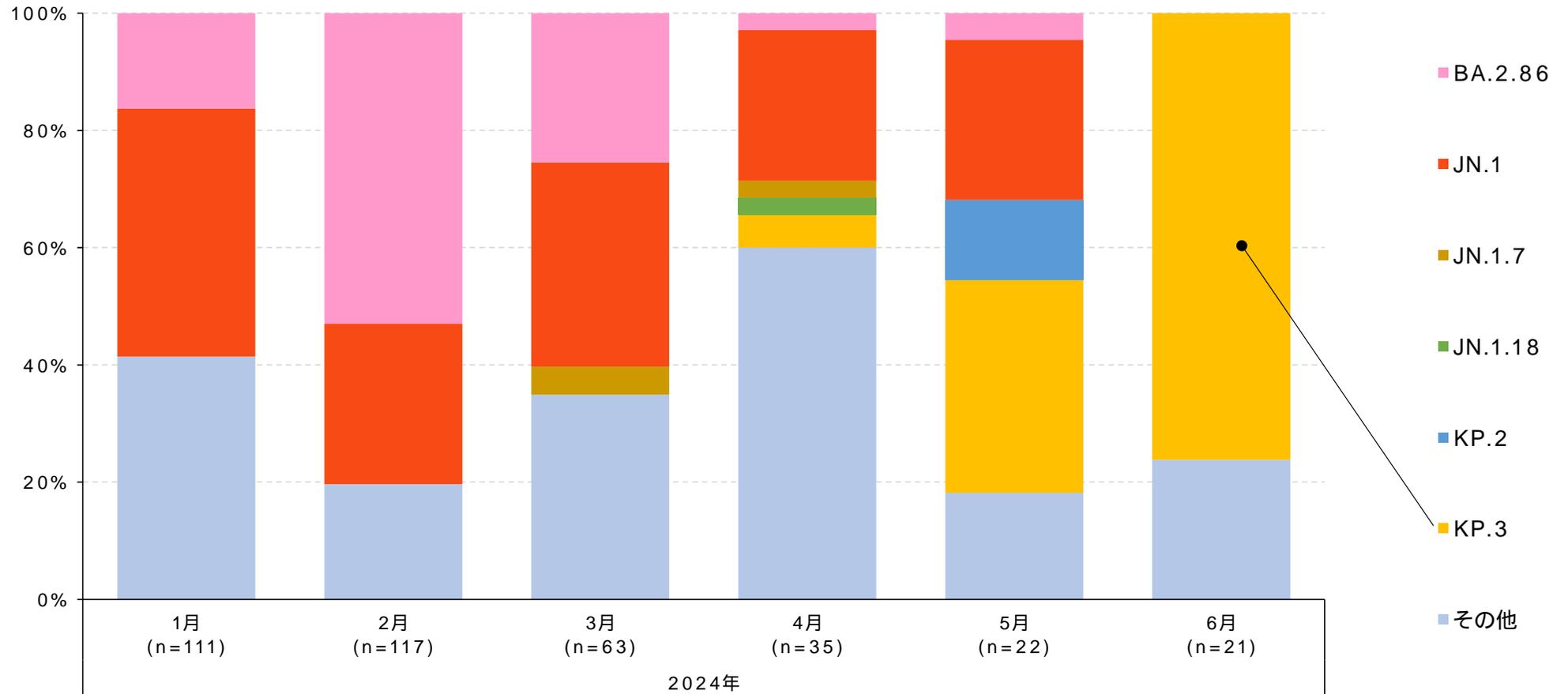
滋賀県 新型コロナウイルス感染症 保健所別 入院サーベイランス推移 R5年第39週(9/25～10/1)～R6年第34週(8/19～25)



滋賀県 新型コロナウイルス感染症 年齢別 入院サーベイランス推移 R5年第39週(9/25～10/1)～R6年第34週(8/19～25)



滋賀県 新型コロナウイルス感染症 月別ゲノム解析結果 R6年1月～R6年6月



R6年第32週時点の速報値であるため、今後値が変わる場合があります。 9
WHOの分類に基づき集計しています。

評価(8月19日～8月25日)

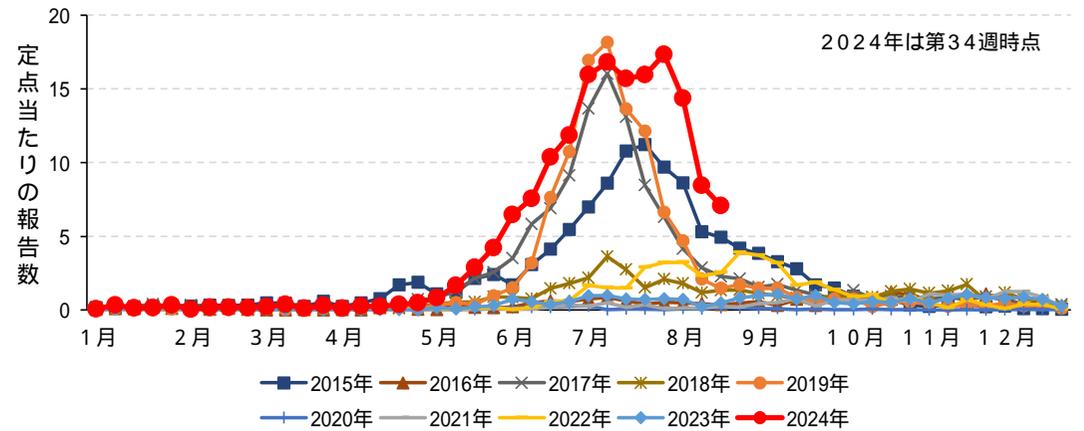
- 本県のCOVID-19患者の定点当たりの報告数は、第30週(7/22～7/28)の13.05をピークに減少傾向が見られます。年代別では、70歳以上が多く報告されています。
- 入院患者の基幹定点当たりの報告数も減少傾向が見られています。入院の多くを70歳以上が占めています。
- 昨年は9月に10歳未満、10歳代の報告数が増加しており、今年も同年代の増加が懸念されます。

2. その他の感染症

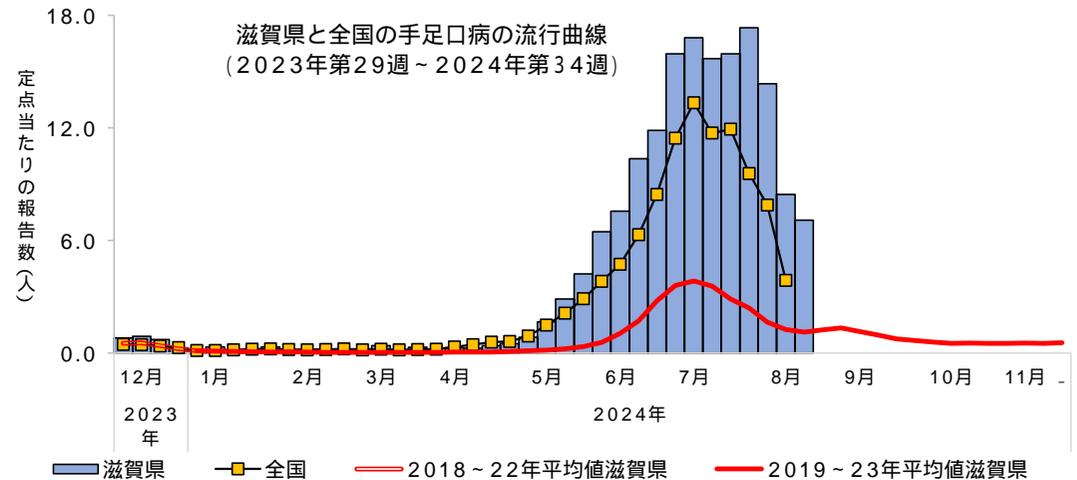
手足口病

- 「**警報**」を継続して発令中（6/6～）。
- 子どもを中心に流行する夏風邪の一つとして知られる感染症。
- 滋賀県では、2015年、2017年、2019年と**2年毎**に流行が見られていた。
- 2024年は**5月頃から徐々に増加**が見られ第22週（5/7～6/2）に警報基準を超えた。
- 第31週（7/29～8/4）をピークに**減少傾向**が見られる。
- 全国では28週（7/8～7/14）をピークに減少傾向が見られる。

滋賀県 手足口病の流行曲線(2015～2024年)



滋賀県と全国の手足口病の流行曲線
(2023年第29週～2024年第34週)



腸管出血性大腸菌感染症(EHEC)

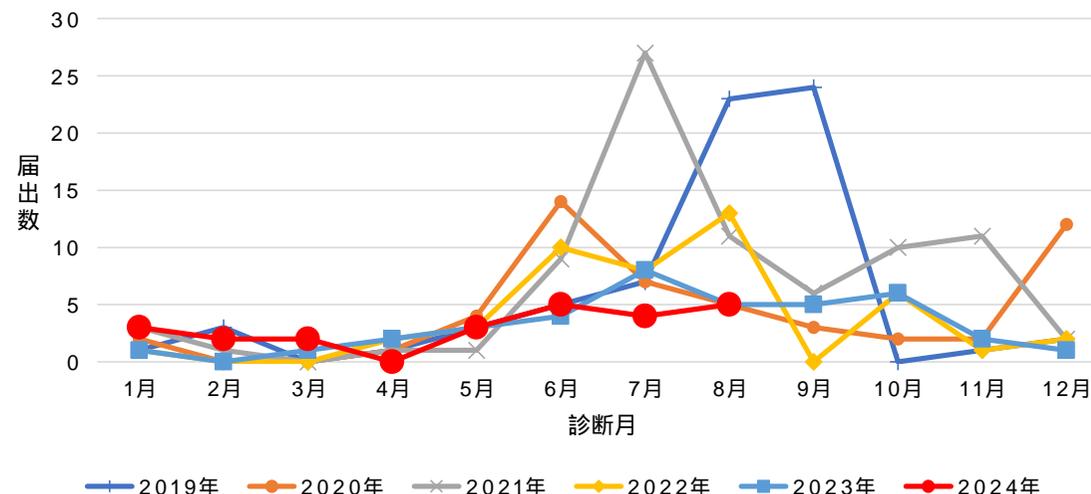
■腸管出血性大腸菌感染症（全数把握疾患）

- 8月21日から今年度1回目の**腸管出血性大腸菌感染症多発警報**を発令。（～9/1）
- 有症状者の6～7%に、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症な合併症が発症する¹⁾。
- 本県において、2022年は有症状者29例中1例（3.4%）、2023年は24例中1例（4.2%）のHUSの報告がされている。
- 2024年は8月28日時点でHUSの報告はない。

1) 国立感染症研究所「腸管出血性大腸菌感染症」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>

滋賀県 腸管出血性大腸菌感染症の届出数(2019年～2024年8月28日時点)



腸管出血性大腸菌感染症およびHUSの届出数（診断月で集計）

年	報告数	有症状者	HUSの報告数	年代
令和2年(2020年)	52例	32例	2例	10歳未満：1例 10歳代：1例
令和3年(2021年)	82例	56例	1例	10歳未満：1例
令和4年(2022年)	46例	29例	1例	10歳未満：1例
令和5年(2023年)	38例	24例	1例	10歳未満：1例
令和6年(2024年)	24例	14例	0例	-

その他定点把握疾患

